

2024年 7月 16日  
エッジテクノロジー株式会社  
(コード番号：4268 東証グロース)

## 不動産鑑定業務における DX 支援の事例紹介「日本ヴァリュアーズ社」

エッジテクノロジー株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：住本幸士。以下、当社）は、不動産鑑定を専門とする日本ヴァリュアーズ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：小室淳。以下、JV 社）の生産性を向上させるため、データを活用した業務改善を推進しています。今般、当社が開発したシステムが JV 社に実装されたことにより、JV 社の不動産鑑定業務は年間 650 時間の削減が見込まれています。この実績に基づき、当社は JV 社と新たな契約を締結し、来春の完成を目標に生成 AI を活用した社内システムの開発に取り組んでいます。



JAPAN VALUERS

この度の取り組みについて、JV 社の代表取締役である小室淳氏は、以下の通りコメントしています。

「専門性と業務経験が必要な不動産鑑定だからこそ、他社と差別化するためにはデータを活用した業務改善が必要だという使命感を持ち、社長直轄の DX 経営戦略部を創設しました。エッジテクノロジー社は、当社の DX 経営戦略部と伴走しながら、当社が抱える課題に真剣に向き合っていただける大切なパートナーだと考えています」

当社の代表取締役である住本幸士は、以下の通りコメントしています。

「データを活用した業務改革を実行するには、経営のコミットメントと強力な支援が必要だと言われています。この点において、日本ヴァリュアーズ社は理想的なモデルケースです。当社は、これからもデータ活用を希望される顧客の視点に立ち、これまでの実績とノウハウを活かして満足いただけるよう最適な AI ソリューションサービスの提供に邁進してまいります。」

## 【事例内容】

### 1. 課題

不動産鑑定は国家資格が必要な高度で専門性の高い業務です。不動産鑑定士が不動産の鑑定評価や価格調査を実施するにあたり、前提となる最新の不動産データを確認する必要がありますが、不動産データの収集は不動産鑑定士が対象となる不動産ごとにマニュアル作業で行う必要があり、そのことが作業負荷となっていました。

### 2. 解決策と想定される効果

対象となる物件の住所を入れるだけで、取得可能な情報が自動で表示される社内システムを当社が開発しました。これにより、不動産鑑定に必要なデータの確認が容易となり、不動産鑑定士の作業効率が向上しました。JV社の試算によると年間650時間の削減が見込まれており、不動産鑑定士がより付加価値の高い業務に専念できるようになることが期待されています。

### 3. 今後の取り組み

技術の進展が著しい生成AIの技術を用いることで、さらなる業務改善に取り組めます。JV社が不動産鑑定の専門業者として蓄積してきた社内データは膨大です。それらのデータを効率的に整理し、業務に使える知識として生成する仕組みを構築することで、業務スピードの改善、品質向上、社員育成等に活用する予定です。

## 【エッジテクノロジー株式会社】

会社名：エッジテクノロジー株式会社

事業内容：AIアルゴリズム事業（AIソリューションサービスの提供・AI教育サービスの提供・AIプロダクトの開発/販売）

所在地：東京都千代田区神田美倉町7番1 Daiwa 神田美倉町ビル 4F

設立：2014年5月12日

従業員数：98名（2024年4月30日現在）

資本金：97百万円

代表取締役：住本 幸士

URL：<https://www.edge-tech.co.jp/>